

人類の定向進化

— ニュートン・藤永の預言 —

藤 永 太郎*

今日の地球環境はどのようにしてできたのであろう。始めに素粒子があり、それらが原子を創り、やがて分子そして高次の化合物例えば炭水化物となり、それらの集合体の中に運よく原核生物を創るに参画できた分子群があったのであろう。

次いで植物プランクトン、動物プランクトン、下等動物、高等動物、特に温血動物そして原猿が生まれ、最後に二足歩行するヒト *Homo Sapiens* が完成する。

猿から人への進化は生物学的には些細と言えらるかもしれないが、この二足直立歩行が可能になった事によって、人は地上80%と言われる平野部を独り占めする生物となり、他動物に比類のない人類文化を形成したのであり、現在もその進化を続けている。

他方、生物界には環境に適合した形態進化によって個体数が著増することがある。このような現象を定向進化 *orthogenesis* という。例えばマンモス象は更新世に急繁殖し世界を覆ったが更新世末には突然絶滅している。

人も直立歩行に入って以来異常に繁殖し始め、殊に17世紀のルネッサンスにおいて知性を確立してからは倍増期が50年という指数函数的速度で増加して今日に至っている。明らかに人は定向進化し始めたのである。

国連人口局は、1995年に世界人口が57.5億であり、2050年には119億に達する見込みとの報告をした。筆者はこの時が人類定向進化の極限

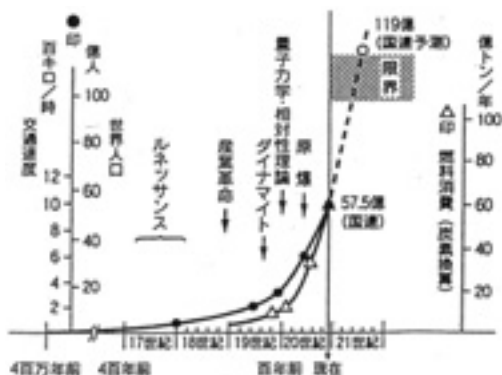


図 紀元1600年～2100年の間の、世界人口、最高交通速度、燃料消費の推移。(著者原図)

であろうと「京都大学の世紀」に書いて注目を浴びたのであったが、驚くべきことにその10年後にニュートンが旧約聖書の解説結果として2060年に世界の終末がくるとの預言をしていた事を多くの新聞が報じたのである。(2006年6月21日夕刊)ヘブライ図書館蔵の資料であった。

現在も未だ、人類の定向進化にもとづく絶滅を信じる人は少ない、未だ人は己の創った文化の永続性を信じている。

然し、恐竜やマンモス象も、絶滅を自覚していなかった事に人、*Homo Sapiens* も想いを致す秋が来ていると云わざるを得ない。

あと僅か48年のことなのである。

〈註〉 進化しない生物は環境に応じて生存する。

アフリカ東海岸マダガスカル島周辺に棲む魚シーラカンスは3億年前に生まれ、進化しない儘で現在も棲息する。

*京都大学名誉教授